

航友会だより

目次

7年ぶりに同窓会開催	・・・1
平成8年度代議員会開催	・・・2
沖縄支部だより	・・・2
同期会開催	・・・3
鳥人鳩舞発部(在学生より)	・・・3
江南校舎の思い出(OBより)	・・・3
鈴木先生を偲んで	・・・4
おくやみ	・・・4
通信欄	・・・4

発行 中日本航空専門学校航友会事務局 〒501-32 岐阜県関市迫間1577 中日本航空専門学校内 ☎(0575) 24-2521



航友会だよりは会員一人一人とのパイプ役として第8号を発行することになりました。今後は年一回、夏に発行していきたいと考えています。

会員の皆様にもいろいろとご協力いただくこととなりますが、よろしくお願ひします。

さて平成8年10月19日に名古屋通信会館で7年ぶりの同窓会が行われ、同窓生諸兄多数の出席がありました。紙面を借り、お礼を申し上げます。

卒業以来の旧友・恩師・学校旧教職員との再会で開始早々から盛り上がり、会も半ばを過ぎた頃には、期生を超えての交流とともに、楽しい雰囲気時間が過ぎていきました。

途中には、各種アトラクションも用意されていましたが、同窓生の方々はそれぞれの話に夢中で、アトラクションなどそつちのけ? (事業委員の皆さん、ご苦労様でした)

その中で前校長鈴木英夫先生が祝辞を述べられました。元気なお姿を拝見する最後の機会になるとは、夢にも思いませんでした。(詳細は後述)

終了後、同窓生の中には話足りず、二次会へ行くグループ等もあり、名残惜しい中での閉会となりました。

次回にはもっと多数の同窓生の参加を期待します。

平成八年度代議員会開催

平成八年十月十九日(土)、名古屋通信会館において平成八年度の代議員会が、代議員二十二名中十八名の参加を得て開催されました。当日は代議員会に引き続き同窓会が同会場にて開催された為、時間の制約がある中で、四時間の白熱した討議となりました。

平成七年度事業報告

平成七年度に実施された事業の中で特筆すべきことは、総合会員名簿が新たに作成されたことです。今回の調査により約六千名の卒業生の内、約八割の住所が判明しました。航友会運営上、卒業生住所は最も重要です。これによ

って基盤が一つ整備されたといえます。諸規程の制定

今回の会議において、「航友会支部グループ航友会設置規程、及び支援に関する細則」、「同期会等への支援について」の三つの規程等が制定されました。これによって今後、支部またはグループによる会を作る場合の基準が明確になりました。また八年度は、これら会の設立を後押しする推進委員及びラグビー部OB会も正式にグループ航友会として承認されました。

地区、グループ、同期生で、会を作りたいと考えている卒業生がいらっしやいましたら、ご一報下さい。

中・長期計画の作成について

航友会の中長期計画の作成のため、会の現状及び将来について、意見交換をしました。

各代議員からは、代議員としても何らかの支援のための活動をしたいとの積極的な意見から、同窓会の毎年開催、航友会の設立目的の明確化、準会員へのPRなど、さまざまな意見が出されました。また平成十一年には、学校が創立三十周年を迎えるため、記念行事を支援するための基金の設立も提案され、検討することになりました。

このように平成八年度代議員会も無事に終了することが出来、紙面をお借りして関係各位に厚くお礼申し上げます。

沖縄支部だより

安藤 弘治

沖縄支部も発足から早11年が経ち、支部役員の方々には大変なご苦労があったことと思います。役員のお大半がJTA社員ということもあり、毎日多忙の中支部運営に努めていただき、事務局としても感謝の念に耐えません。

しかしながら支部の拡大運営には、数々の問題もあり、現在までは必ずしも満足できる状況ではなかったことも事実です。

この様な状況に対応するため、昨年度の代議員会にて、航友会事務局から沖縄支部推進委員を選出し、設置することが議決され、安藤弘治(整備科八期生)、梶田和彦(電子制御科一期生)が務めることになりました。

早速、今年四月に学校の業務を兼ねて沖縄に出向き沖縄支部メンバー五人と、今後の支部拡大について活発に意見を交わしました。その結果支部の拡大にも見通しがつき、今年度中に沖縄に在住する全卒業生に対し支部への入会を募り、新体制を整える運びとなりました。

今後は沖縄在住の卒業生一五〇名のご協力を基盤に、支部の発展を願いつつ支部役員と共に努力していきたいと思えます。

平成7年度 会計決算報告

収入の部 (単位:円)		
項目	金額	摘要
前年度繰越金	18,825,310	
会費	1,995,000	平成8年度入学生399名
名簿売上等	3,191,512	賛助金31口、広告51社 名簿購入者488名
利息	119,822	定期利子
合計	24,131,644	
支出の部 (単位:円)		
項目	金額	摘要
同期生名簿(総合名簿)作成費	3,874,909	作成850部
平成5・6年度生名簿作成費	201,493	発送526名
会報発行費	458,297	作成6,000部、発送4,546名
事業運営費	25,140	調査依頼費 会長卒業式出席費 ラグビー部OB会援助 および通信費等
同期会援助費	55,448	
同窓会開催準備費	378,480	同窓会館内印刷、郵送料
会議費	232,920	定例役員、代議員会
通信費	8,290	役員会、代議員会郵送代
雑費	54,189	カヌエ代、フィルム代等
予備	4,500	臨時役員会
小計	5,293,666	
次年度繰越金	18,837,978	
合計	24,131,644	



航空整備科十六期生の 同期会開催

卒業から十年目の今春、航空整備科十六期生D組の同期会が開催され、全国各地から25名の卒業生が航空産業のメッカ各務原市に集まりました。

恩師の方では、佐々木先生をはじめ担任の吉森先生など多数のご出席を頂き、現在・過去・未来と大いに語らい、飲み、変わらない恩師と級友を見て安心しました。

また、卒業生のほとんどが夢見た航空業界に携わっており、改めてお世話になった先生方に感謝しつつ、四年後二〇〇一年の再会を約束し、解散となりました。

最後に、同期会にご支援頂いた航友会事務局にお礼申し上げます。



鳥人間研究開発部

河合 直仁

鳥人間研究開発部は、六年前に同好会として発足し、その後クラブとして承認され学校の全面的なサポートを受け、毎年彦根市で開催されている鳥人間コンテスト選手権大会出場を目標に部員一同全力で頑張っています。

出場実績は滑空機部門で過去6回となり、成績は今一つですが、「出場することに意義がある」という精神を念頭に置いて、部員相互の団結を図っています。

大会出場までには、厳選なる書類審査が行われ鳥人間研究開発部は、毎回機体に特長を持たせ審査に合格してい



ます。

機体はGFRP製ホッド機体、18mスパン翼、フラッペロンなど他のエントリー機には無い構造で大会に出場しました。

また、岐阜県カレッジ・エキスポでは「鳥人間機の研究」のテーマで研究発表を行い、県知事賞を受賞しました。

部員一同の夢は、鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門優勝であり、今はその夢を抱き出場機の設計・製作・陸上試験に日夜励んでいます。今後とも、鳥人間研究開発部に暖かいご声援をお願いします。

江南校舎の思い出

九期生 平 田 和 裕

最近テレビでよく懐かしのフォークソングの特集を放送しています。フォークソングを聴いて懐かしい思い出に浸るおじさん達が増えたせいでしよう。そうです、この私もそのおじさんの一人です。江南での下宿生活は、フォークソング的な生活でした。優しい下宿のおばさん、六畳一間の狭い部屋、共同のトイレ、風呂、夏場は40℃を超える灼熱地獄…そしてちよつと貧乏（これがポイント）。これが古典的な清く正しい下宿生活だと思っています。今の学生は、個室、バス、トイレ付、エアコン、電話のフル装備で生活して

いると聞きます。これでほんとに思い出深い学生生活が送れるのだろうか？と少々心配になってしまいました。

清く正しい下宿生活にも数々のイベントがありました。例えば、夏の暑い夜は、近くのドーナツ屋でアイスコーヒ一杯をちびちび飲みながら下宿の室温が睡眠可能値に入るまで粘り強く待つ。（深夜徘徊でよく江南警察のお巡りさんに職質された）下宿の前のちよつとエッチな本の自動販売機に大事な生活費をつぎ込んでしまったり。（ちなみにそのときの仲間が、現在中日本航専の教員）などなど、今思えば楽しい思い出が満載です。

学校も現在は、関市に移転して私たちが在学していた頃とは、比べものにならないくらい機材、設備とも立派になっています。しかし、江南校舎で育った私にとっては、中日本航専＝江南校舎なのです。江南校舎には超一級の思



い出がいつばいす。民家の庭先で三機の機体がランナップする壮大な？光景などということは、江南の校舎で学んだ者にしか分からない光景でしょう。

この楽しい思い出の残る江南校舎は、残念ながら取り壊されて、今は跡形もありません。思い出の場所が消えていくのは寂しいことですが時代の流れなのでしょう。

私は現在、毎日新聞社航空部に勤務しています。我が社の航空部には、経路はいろいろですが中日本航専の卒業生が五名在職しています。(この小世帯で五名は多い) 学校での先輩、後輩の関係が確立されているので良好な上下関係(実は先輩が下?)が構築されています。

社会に出ると学生時代のようなストリートな気持ちで接する人間関係だけではやっていけないことがあります。しかし、これからも江南校舎に通っていた時代のフォークソングがよく似合うちよつと貧乏だった頃の気持ちを持ち続けていきたいと思えます。

鈴木英夫名誉校長死去



長年にわたり中日本航空専門学校の発展に寄与された鈴木英夫前校長が四月十二日心不全のため愛知県大山市の病院

で死去されました。享年七十七歳。

鈴木先生を偲んで

航友会副会長 浅野 敏 美

鈴木先生の訃報を聞き、あまりにも突然なことに暫し茫然と立ち尽くし、つい先日、本校の入学式に大変元気に出席され、「頑張っているね」と声をかけられたあのお姿からは、にわかには信じ難いものでした。

病名は「心不全」ということであり、当日も元気にお出掛けになる際に、突然倒れられ、急逝されたということでした。

先生には、まだまだ色々ご指導をいただき、本校の行く末をしつかりと見ていただきたかったと思っておりましたのに、誠に残念でなりません。

思い起こせば、鈴木先生の足跡は中日本航専の歴史であり、今日、本校が在るのは先生のお陰であると言っても過言ではありません。愛知県の片田舎の小さな専門学校を、まさに日本一の航空従事者養成の専門学校までに育成されたその功績は、誠にもって偉大であり、改めて敬服するものであります。

その間の苦難は筆舌し難いものがありますが、当時を振り返ってみますと、企業訪問に際し、知名度のない専門学校への企業の反応は冷淡であり、幾度となく辛酸を嘗めたものです。

しかしながらお供をした私に対しても、私にあつた話題で場の雰囲気盛り上げられるなど、細やかな心遣いには大変感銘致しました。

こうした人間味ある対応が、やがて企業においても「鈴木ファン」を形成して行き、今日の基盤を築いたのではないかと感ずる次第です。

今後は、先生の意志を大切に、航友会の一層の発展を期することを使命とし、鋭意努力することにより先生のご功績に報いたいと思えます。

最後に心からご冥福をお祈りいたします。

おくやみ

● 杉山 武 航空電子制御学科長は、平成九年六月十八日病氣のためご逝去されました。享年六十五歳

● 藤本茂樹氏(航空整備科二十二期)は、平成九年六月一日不慮の事故のためご逝去されました。享年二十四歳

● 桐島 崇氏(航空整備科二十六期生)は、平成九年七月三日、ヘリコプターの墜落事故のためご逝去されました。享年二十歳

ここに謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

通信欄

航友会では「航友会の活性化」「航友会だよりのより充実した紙面」をめざして、会員の皆様からの原稿を募集しています。内容は、在学中の思い出・職場での体験談など何でも結構です。五百字程度にまとめさせていただきます。氏名・学科・期生をお書き添えの上、航友会会報委員までお送り下さい。なお、掲載させていただいた方には図書券を進呈いたします。

また、会報委員より原稿をご依頼することもあります。その際はご協力をお願いいたします。

本校では、最近の社会における急速なマルチメディア化に対応するため、ホームページを開設しました。ぜひ、アクセスして下さい。

<http://www.com.or.jp/CNA.ac/>
また、電子メールにも対応していますのでご利用下さい。

INTERNET cnagin@com.or.jp
NIFTY-Serve XY202066

編集後記

会員の皆さんに、航友会だより第八号はどのように映っているのでしょうか。末長く愛読される航友会だよりになるよう、製作スタッフ一同、読者の壁を超えた紙面作りを目指してがんばっています。